

子宮内の善玉菌

妊娠・出産の成否に影響



産婦人科医

今井篤志さん



松波総合病院
腫瘍内分沁センター長
(羽島郡笠松町田代)

私たちの体には膨大な数の細菌が生息し、ヒトの正常な機能のみならず疾患の発生に深く関わっています。細菌の種類や分布比率は部位によって異なり、各部位で特徴的な細菌の分布を形成しています。

いわゆる「悪玉菌」「日和見(時と場合によって有害、無害または有益な作用をする)」

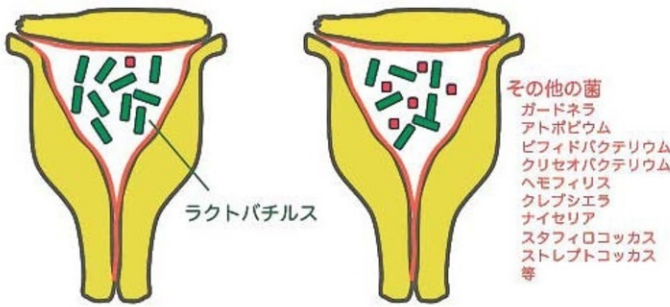
菌」として知られている種類がほとんどです。健康な子宮内細菌分布が崩れ、これらの菌が増加すると、子宮内膜の炎症(子宮内膜炎)を引き起こします。子宮内膜炎は、過剰な免疫反応によって着床(受精卵が子宮内膜に定着すること)の阻害、受精卵の排除や、妊娠の中断つまり流産につながると考えられています。

近年、ラクトバチルスの中でも妊娠成立に関連する有力なタイプが同定されました(ラクトバチルス・クリスパス)。子宮内細菌分布の検査は、子宮内膜や内腔液を採取し細菌の遺伝子分析で行いますので、ラクトバチルスの割合だけでなくどの種類のラクトバチルスが多いのかを検出できます。いまだ保険が適用されませんが、先進医療として厚生労働省が一定の施設基準を設定し、施設基準に該当する保険医療機関は届け出により保険診療との併用ができます。

腸管内や口腔内の細菌分布の乱れは生活習慣病や免疫異常の原因となることは広く知られています。子宮内はこれまで無菌と考えられていましたが、10年ほど前から、正常な子宮内には善玉菌が存在し、雑菌が増えると妊娠や出産の妨げとなることが明らかになってきました。

正常な子宮内の細菌の大部分は乳酸菌の仲間のラクトバチルス菌です。ラクトバチルスにはいくつかの種類があり、

ラクトバチルスが90%以上 ラクトバチルスが90%未満



ラクトバチルスが90%以上	ラクトバチルスが90%未満
70.6 %	33.3 %
58.8 %	6.7 %

妊娠率
流産や早産などに至らず
生児を得る率

子宮内細菌分布の妊娠・出産への影響 (Moreno I.らの報告(2016)(2022)を図式化)

ラクトバチルスの仲間内の役割分担はまだ未解決の面が多いのですが、この分野は急速に新知見が得られています。期待しましょう。